

**2011 年度
大学のアクティブラーニング調査報告書
(質問紙調査報告)**

河合塾

2012 年 10 月

— 目 次 —

| | |
|------------------------------------|----|
| 1. 質問紙調査の概要 | 1 |
| 2. 質問紙の内容 | 2 |
| (1) 本調査で対象とする科目 | 2 |
| (2) 本調査で対象とする「アクティブラーニング科目」の定義 | 2 |
| (3) 本調査におけるアクティブラーニング科目の目的別文理とその定義 | 3 |
| (4) 質問構成 | 3 |
| 3. 質問紙調査の結果分析 | 11 |
| (1) 初年次ゼミ | 11 |
| (2) 専門知識の定着を目的としたアクティブラーニング科目 | 17 |
| (3) 課題解決を目的としたアクティブラーニング科目 | 21 |
| (4) ファシリテータとしての SA・TA 導入状況 | 25 |
| (5) 文系学科の専門ゼミ | 27 |
| (6) 卒業論文、卒業研究 | 29 |
| (7) 学習成果コンテスト | 31 |

1. 質問紙調査の概要

■調査対象

調査対象は2011年度カリキュラムとした。

医・歯・薬、獣医系の6年制の学部、芸術系学部、体育系学部、医療福祉系学部等、資格取得を目的とした学部を除くほぼすべての系統のうち、下記一覧の学科系統の国公立大学の2,130学科の学科長に対して質問紙を送付し、郵送およびメールにて952学科から回答を返送いただいた（回収率44.7%）。

送付対象を学部ではなく学科としたのは、学科ごとのカリキュラム編成が大きく異なる学部があるためである。また学部の中からはその学部の代表的な学科、他の大学でも多く見られる学科を抽出した。

※回答いただいた952学科は巻末に記載。

| 学部系統 | 学科系統 |
|---------------|-----------------------------------|
| 文・人文・外国語学系 | 日本文学系、英米文学系、外国語・コミュニケーション学系 |
| 社会・国際学系 | 社会学系(観光・ジャーナリズム含む)、国際関係学系 |
| 法・政治学系 | 法律系、政治・行政学系 |
| 経済・経営・商学系 | 経済学系、経営学系、商・会計学系 |
| 教育学系 | 教育学・教育心理学系、小等・中等教育教員養成課程(国語科、数学科) |
| 理学系 | 数学系、物理系、化学系、 |
| 工学系 | 機械工学系、電気・電子工学系、通信・情報工学系、建築学系 |
| 生物生産・応用生命学系 | 生物生産学系、応用生命学系 |
| 総合・環境・人間・情報学系 | 総合政策学系、環境科学系、人間科学系、情報メディア学系 |

■調査時期

質問紙発送：2012年1月

質問紙回収：2012年1月～4月

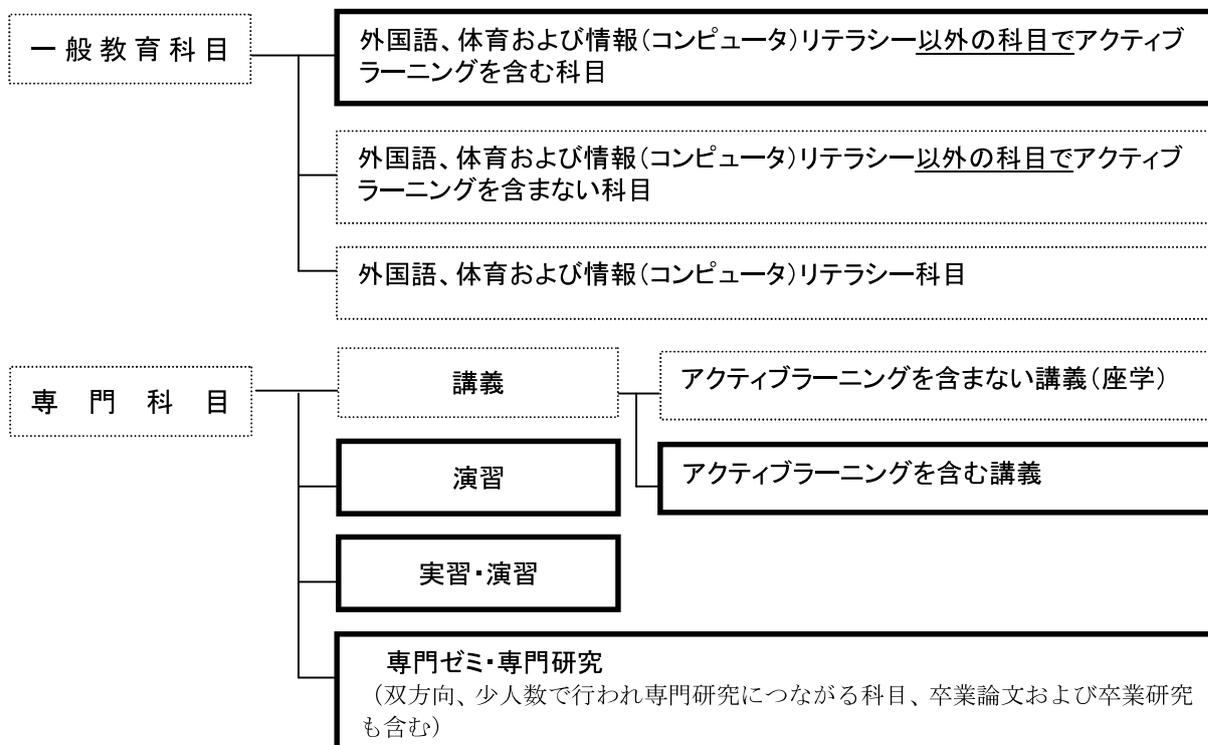
■系統別質問紙送付、回答状況

| 系統 | 送付 学科数 | 回答 学科数 | 系統 | 送付 学科数 | 回答 学科数 |
|----------|-----------|-----------|-------------|-----------|-----------|
| 文・人文・外国語 | 295 | 132 | 理 | 174 | 64 |
| 社会・国際 | 188 | 84 | 工 | 494 | 240 |
| 法・政治 | 141 | 75 | 生物生産・応用生命 | 105 | 31 |
| 経済・経営・商 | 401 | 205 | 総合・環境・人間・情報 | 173 | 75 |
| 教育 | 159 | 46 | 総計 | 2130 | 952 |
| | | | 回収率 | 44.7% | |

2. 質問紙の内容

(1) 本調査で対象とする科目

2011年度のカリキュラムにおいて、下図の **太線枠** に該当する科目を今回の調査の対象とした。



<除外する科目>

a. 就業支援科目は除く。

2011年4月から義務化された社会的・職業的自立に関する指導等には、面接指導、履歴書の書き方、資格取得講座などの「就業支援科目」と、学生の職業観、勤労観を育むことを目的としたキャリア形成支援に関わる取り組みなどの「キャリアデザイン科目」に分けられる。このうち、「就業支援科目」は調査対象から除外する。

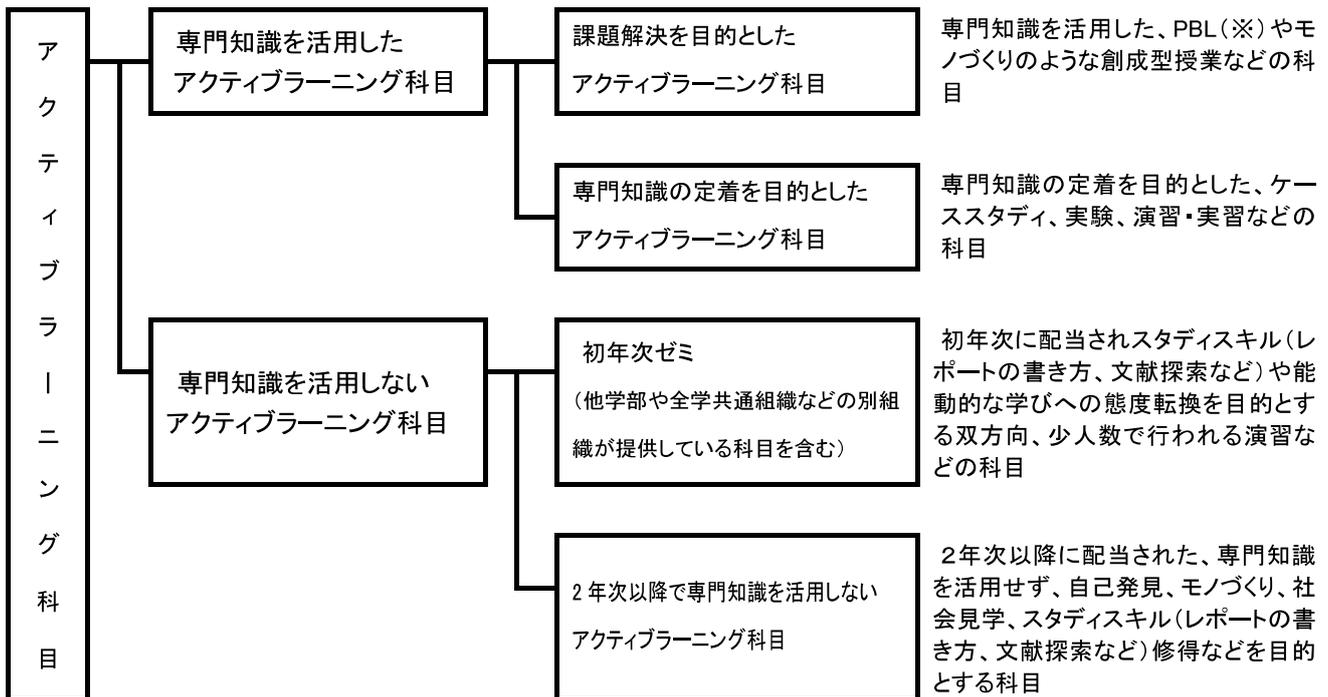
b. 初年次ゼミに関する質問以外では、他学部や全学共通組織が開講している科目は除外する。

(2) 本調査で対象とする「アクティブラーニング科目」の定義

授業形態ごとに、下記の定義に該当するものを「アクティブラーニング科目」とした。

| | |
|--------------------|--|
| 「講義」科目 | 「グループワーク」、「ディベート」、「フィールドワーク」、「プレゼンテーション」、「振り返り」のアクティブラーニングの5つの形態のうちのいずれかが、全開講回数のうち 延べ半数以上 で実施されている。 |
| 「演習」科目および「実験・実習」科目 | 「グループワーク」、「ディベート」、「フィールドワーク」、「プレゼンテーション」、「振り返り」のアクティブラーニングの5つの形態のうちのいずれかが、全開講回数のうち 延べ半数以上 実施されている。 |

(3)本調査におけるアクティブラーニング科目の目的別分類とその定義



(※)PBL(project/problem based learning)とは、課題発見・解決型学習のことで、学習者が自ら課題を発見し、その解決を図ることを通して学びを深めるような学習方法。

(4)質問構成

質問紙での次の用語は、本報告書の本文では次のように置換されている。

「専門知識の定着を目的としたアクティブラーニング科目」→「一般的アクティブラーニング」科目

「課題解決を目的としたアクティブラーニング科目」→「高次のアクティブラーニング」科目

1. アクティブラーニングを実施している科目について
 - 1) 初年次ゼミ
 - 2) 専門知識を活用しないアクティブラーニング科目(※)
 - 3) 専門知識の定着を目的としたアクティブラーニング科目
 - 4) 課題解決を目的としたアクティブラーニング科目
 - 5) 専門ゼミ・専門研究
 - 6) 卒業論文・卒業研究
2. 学習成果コンテストについて

(※) 専門知識を活用しないアクティブラーニング科目については、科目分類の定義の趣旨がうまく伝わらず、回答者の解釈がさまざまで、回答内容のばらつきが大きかったため、今回の回答分析からは除外した。

1. アクティブラーニングを実施している科目について

1) 初年次ゼミ ※ 他学部や全学共通組織などの別組織が提供している科目を含む

- 「初年次ゼミ」とは、初年次に配当されたスキル（レポートの書き方、文献探索など）や能動的な学びへの態度転換を目的とする双方向、少人数で行われる演習などの科目のことです。

190分換算での1クラス、1セメスターあたりの授業回数」欄は、1コマを90分とした場合、1つのクラスでは当該の授業を1セメスターの間に何コマ実施されていることになるかということを開く欄です。例えば、1コマ90分で時間割が組まれている科目が、毎週水曜日の午後の2コマを使って1セメスターの間に15回実施されている科目があった場合には、“30”と記入します（15回×2コマ）。

SA：2年生以上の学部生
TA：大学院生
ファシリテータ：単なるプリント配布や回収などの事務的な作業だけでなく、受講生に対して直接アドバイスも行って授業進行を補助するような人。

【記入欄】

| 初年次ゼミの科目名 ※ 「初年次ゼミ」とは、初年次に配当されたスキル（レポートの書き方、文献探索など）や能動的な学びへの態度転換を目的とする双方向、少人数で行われる演習などの科目のことです。 | 提供組織 ※1 該当する提供組織を✓しして下さい。 ※2 他学部や全学共通組織が提供している場合には把握している範囲で、右の設問に回答して下さい。 | 必修/選択 | | 配課セメスター ※ 配置されているセメスターに✓、通期開講の場合には前期・後期の両方に✓。3学期前は前期、2・3学期は後期として記入して下さい。 | 科目に含まれているアクティブラーニングの形態 ※ 実施しない場合、把握できない場合は記入しないで下さい。 | | | | | | 90分換算での1クラス、1セメスター当たりの授業回数 | 教員一人当たりの平均担当学生数 | 開講歴 | SAあるいはファシリテータと授業に関わるか？ ※ 該当するものに✓。 ※ 開講講座数が全1講座で実施している場合は“全講座で導入”に記入して下さい。 | | | | | |
|--|---|---------------------|---|---|---|---------|--------|----------|-----------|--------|----------------------------|-----------------|--------|--|--------------|--|---------|----------|--------|
| | | 必修/選択 ※ 該当するものに✓ | ⇒選択科目の場合 | | 履修率 (x%) ※ 学科学生の何%が履修しますか？該当する学科内での履修率を✓して下さい。 | グループワーク | ディベート | フィールドワーク | プレゼンテーション | 振り返り | | | | | 授業時間外学習 (宿題) | レポートの有無 ※ 実施しない場合、把握できない場合は記入しないで下さい。 | | | |
| 目的と内容 (50字以内) | | 学科 | 履修率 (x%) | 前期 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 返却しない | 返却は教員裁量 | 返却必須 | 導入していない | 一部の講座で導入 | 全講座で導入 |
| | | 学部 | x<20 20≦x<40 40≦x<60 60≦x<80 x≧80 | 後期 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 返却しない | 返却は教員裁量 | 返却必須 | 導入していない | 一部の講座で導入 | 全講座で導入 |
| | | 全学組織 | x<20 20≦x<40 40≦x<60 60≦x<80 x≧80 | | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 返却しない | 返却は教員裁量 | 返却必須 | 導入していない | 一部の講座で導入 | 全講座で導入 |
| | | | x<20 20≦x<40 40≦x<60 60≦x<80 x≧80 | | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 返却しない | 返却は教員裁量 | 返却必須 | 導入していない | 一部の講座で導入 | 全講座で導入 |
| | | | x<20 20≦x<40 40≦x<60 60≦x<80 x≧80 | | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 基本的に毎回 | 返却しない | 返却は教員裁量 | 返却必須 | 導入していない | 一部の講座で導入 | 全講座で導入 |

2) 専門知識を活用しないアクティブラーニング科目

- 「専門知識を活用しないアクティブラーニング科目」とは、専門知識を活用せず、自己発見、モノづくり、社会見学、スタディスキル指導（レポートの書き方、文献探索など）などに取り組むような科目のことです。
- 科目の目的が他のアクティブラーニングの分類と重なる場合、比重が最も大きい分類の回答欄に回答して下さい。

【記入欄】

配置セメスター

- ※ 1 配置されているセメスターに、通期開講の場合には前期・後期の両方に。3学期制の場合、1学期は前期、2・3学期は後期として記入して下さい。
- ※ 2 履修学年が「2年次後期～」などと指定されている科目の場合には、2～4年次の各後期に。

専門知識を活用しない アクティブラーニング科目名

目的と内容
(50字以内)

必修/選択

- 必修/選択
※ 該当する選択肢に。なお、学科内の一部のコースや専攻で必修としている場合には選択として下さい。

- ⇒ 選択科目の場合
履修率 (X%)
※ 卒業までに学科学生の何%が履修しますか？該当する履修率をして下さい。

90分換算での1クラス：
1セメスターあたりの授業回数

教員一人当たりの担当学生数 (科目内平均)

開講

SAあるいはTAがファシリテーターとして授業に関わるか？

- ※ 該当するものに。開講講座数が全1講座の場合、そこで実施していれば“全講座で導入”に。

全講座で導入

一部の講座で導入

導入していない

SA：2年生以上の学部生
TA：大学院生
ファシリテーター：単なるプリント配布や回収などの事務的な作業だけではなく、受講生に対して直接アドバイスも行っ授業進行を補佐するような人。

「90分換算での1クラス、1セメスターあたりの授業回数」欄は、1コマを90分とした場合、1つのクラスでは当該の授業を1セメスターの間に何コマ実施されていることになるかということをお聞き願います。例えば、1コマ90分で時間が組まれていて、毎週火曜日の午後の2コマを使って1セメスターの間に15回実施されている科目があった場合には、“30”と記入します(15回×2コマ)。

3) 専門知識の定着を目的としたアクティブラーニング科目

- 「専門知識の定着を目的としたアクティブラーニング科目」とは、専門知識の定着を目的として、ケーススタディ、実験、演習・実習などを実施している科目のことです。
- 科目の目的が他のアクティブラーニングの分類と重なる場合、比重が最も大きい分類の回答欄に回答して下さい。

【記入欄】

配置セメスター
 ※1 配置されているセメスターに \checkmark 、通期開講の場合には前期・後期の両方に \checkmark 。3学期制の場合、1学期は前期、2・3学期は後期として記入して下さい。
 ※2 履修学年が「2年次後期～」などと指定されている科目の場合には、2～4年次の各後期に \checkmark 。

専門知識の定着を目的としたアクティブラーニング科目名

専門知識定着の方法 (50字以内)
 ※ 例えば、ドリル、実験、小テストなど、どのような方法・手段で知識を定着させているのかをお答え下さい。

定着させる専門知識を伝達している科目
 ※ 定着させるべき知識を当該科目で伝達している場合と、当該科目とは別科目で伝達している場合とが異なります。当該科目以外で伝達している科目があればご記入下さい。なお、当該科目で伝達している場合には“同科目”と記入して下さい。

必修/選択
 必修/選択
 ※ 該当する選択肢に \checkmark 。なお、学科内の一部のコースや専攻で必修としている場合は選択としている。

⇒ 選択科目の場合

履修率 (x%)
 ※ 卒業までに学科学生の何%が履修しますか? 該当する履修率を \checkmark して下さい。

90分換算での1クラス：
 1セメスターあたりの授業回数

教員一人当たりの担当学生数 (科目内平均)

開講

SAあるいはTAがファシリテーターとして授業に関わるか?
 ※ 該当するものに \checkmark 。
 ※ 開講講座数が全1講座の場合、ここで実施していれば“全講座で導入”に \checkmark 。

全講座で導入

一部の講座で導入

導入していない

SA: 2年生以上の学部生
 TA: 大学院生
 ファシリテーター: 単なるプリント配布や回収などの事務的な作業だけでなく、受講生に対して直接アドバイスも行っている授業進行を補助するような人。

「90分換算での1クラス、1セメスターあたりの授業回数」欄は、1コマを90分とした場合、1つのクラスでは当該の授業を1セメスターの間に何コマ実施されていることになるかということをお聞きします。例えば、1コマ90分で時間が組まれていて、毎週火曜日の午後の2コマを使って1セメスターの間に15回実施されている科目があった場合には、“30”と記入します (15回×2コマ)。

4) 課題解決を目的としたアクティブラーニング科目

- 「課題解決を目的としたアクティブラーニング科目」とは、専門知識を活用して、PBLやモノづくりのような創成型授業などに取り組み科目のことです。PBL (project/problem based learning) とは、課題発見・解決型学習のことで、学習者が自ら課題を発見し、その解決を図ることを通して学びを深めるような学習方法のことです。
- 科目の目的が他のアクティブラーニングの分類と重なる場合、比重が最も大きい分類の回答欄に回答して下さい。
- 専門ゼミ・専門研究については5)で、卒業論文・卒業研究については6)で、それぞれ回答して下さい。

【記入欄】

配置セメスター

※1 配置されているセメスターに \checkmark 、通期開講の場合には前期・後期の両方に \checkmark 。3学期制の場合、1学期は前期、2・3学期は後期として記入して下さい。

※2 履修学年が「2年次後期～」などと指定されている科目の場合には、2～4年次の各後期に \checkmark 。

課題解決を目的としたアクティブラーニング科目名

授業内容 (50字以内)

活用すべき専門知識 を伝達している科目

※ 活用すべき知識を当該科目で伝達している場合と、当該科目とは別科目で伝達している場合とが異なります。当該科目以外で伝達している科目があればご記入下さい。なお、当該科目で伝達している場合には“同科目”と記入して下さい。

必修/選択

必修/選択

※ 該当する選択肢に \checkmark 。なお、学科内の一部のコースや専攻で必修とされている場合には選択して下さい。

履修率 (%)

※ 卒業までに学科学生の何%が履修しますか? 該当する履修率を \checkmark して下さい。

必修科目

選択科目

90分換算での1クラス：
1セメスターあたりの授業回数

教員一人当たりの担当学生数 (科目内平均)

開講

SAあるいはTAがファシリテーターとして授業に関わるか?

※ 該当するものに \checkmark 。開講講座数が全1講座の場合、ここで実施していれば“全講座で導入”に \checkmark 。

全講座で導入

一部の講座で導入

導入していない

SA：2年生以上の学部生
TA：大学院生
ファシリテーター：単なるプリント配布や回収などの事務的な作業だけでなく、受講生に対して直接アドバイスも行なって授業進行を補佐するような人。

190分換算での1クラス、1セメスターあたりの授業回数 欄は、1コマを90分とした場合、1つのクラスでは当該の授業を1セメスターの間に何コマ実施されていることになるかということを開く欄です。例えば、1コマ90分で時間割が組まれていて、毎週火曜日の午後の2コマを使って1セメスターの間に15回実施されている科目があった場合には、“30”と記入します(15回 \times 2コマ)。

6) 卒業論文・卒業研究

※ 卒業レポートのみの場合、卒業実験のみの場合は含みません。

チェック欄には該当する選択肢を✓して下さい。

| 番号 | 設 問 | 選 択 肢 | チ ェ ッ ク 欄 | 番号にしたがって お進み下さい。 |
|----|---|---|-----------|---------------------|
| ① | 卒業論文・卒業研究はありますか？ | ある ない | 択一 | ②へ 次頁へ |
| ② | 卒業論文・卒業研究がある場合、それは全員必須とされていますか？ | 全員必須とされている 必須とされていない | 択一 | ③へ ④へ |
| ③ | 卒業論文・卒業研究が全員必須とされている場合、論文の執筆量などの規定はありますか？規定がある場合には、選択肢に✓した上で、その下の空欄にその量規定について記述して下さい（自由記述）。 | 最低限量規定がある <量規定> 量の規定は無い | 択一 | ⑥へ |
| ④ | 卒業論文・卒業研究が全員必須とされていない場合、学科1学年の学生数を母数として、卒業論文・卒業研究に取り組む学生の割合はおおよそどのくらいですか？ | 20%未満 20%以上 40%未満 40%以上 60%未満 60%以上 80%未満 80%以上 100%未満 100% | 択一 | ⑤へ |
| ⑤ | 卒業論文・卒業研究が全員必須とされていない理由は何ですか？また、卒業論文・卒業研究が全員必須である必要がある場合、その理由についてその下の空欄に記述して下さい（自由記述）。 | 必要であるが、やむを得ず必須としていない 全員必須である必要がない <その理由> | 択一 | ⑥へ |
| ⑥ | 卒業論文・卒業研究がある場合、その審査は誰が行いますか？ | 複数教員により審査が行われる 担当教員のみ審査が行われる | 択一 | ⑦へ |
| ⑦ | 卒業論文・卒業研究がある場合、審査（評価）において、明文化された審査（評価）基準チェックシートはありますか？ | ある ない | 択一 | ⑧へ |
| ⑧ | 卒業論文・卒業研究がある場合、その発表はどのように行われますか（複数回答可）？ | 卒論（卒研）発表会が行われている 全員参加のポスターセッションがある 優秀論文の発表会がある 卒論（卒研）発表会が行われていない 全員の口頭発表がある 全員の口頭発表はない | 複数 回答可 | ⑨へ 次頁へ |
| ⑨ | 卒論（卒研）発表会が行われている場合、全員の口頭発表はありますか？ | 全員の口頭発表がある 全員の口頭発表はない | 択一 | ⑩へ |
| ⑩ | 卒論（卒研）発表会が行われている場合、その発表は成績に反映されますか？ | 反映される 反映されない | 択一 | 次頁へ |

2. 学習成果コンテストについて

※ 学習成果コンテスト：単なる発表会ではなく、成果を競い、表彰や順位付けが行われるもの。

正課の学習成果を高めることを目的にした、大学、学部あるいは学科主催のゼミ大会、制作物のコンテスト、研究発表会などの学習成果コンテストはありますか
 (1ゼミ・1授業内のもの、卒業研究発表会、学外団体が主催するものは除く)。該当する選択肢に✓を記して下さい。

ここで言う「参加学生」には、プレゼンをする学生、プレゼンのための準備をする学生が該当します。

| 学習成果 コンテスト名 | 学習成果コンテスト の概要 | 対象学年 | | | | 主催 | | | 参加学生の割合 (x%) | | | | | | | |
|----------------|------------------|------|-----|-----|-----|----|----|----|--------------|------|-------------|-------------|-------------|--------------|-------|--|
| | | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 4年生 | 大学 | 学部 | 学科 | その他 ※直接記入 | x<20 | 20≤ x<40 | 40≤ x<60 | 60≤ x<80 | 80≤x <100 | x=100 | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | |

以上、ご協力ありがとうございました。

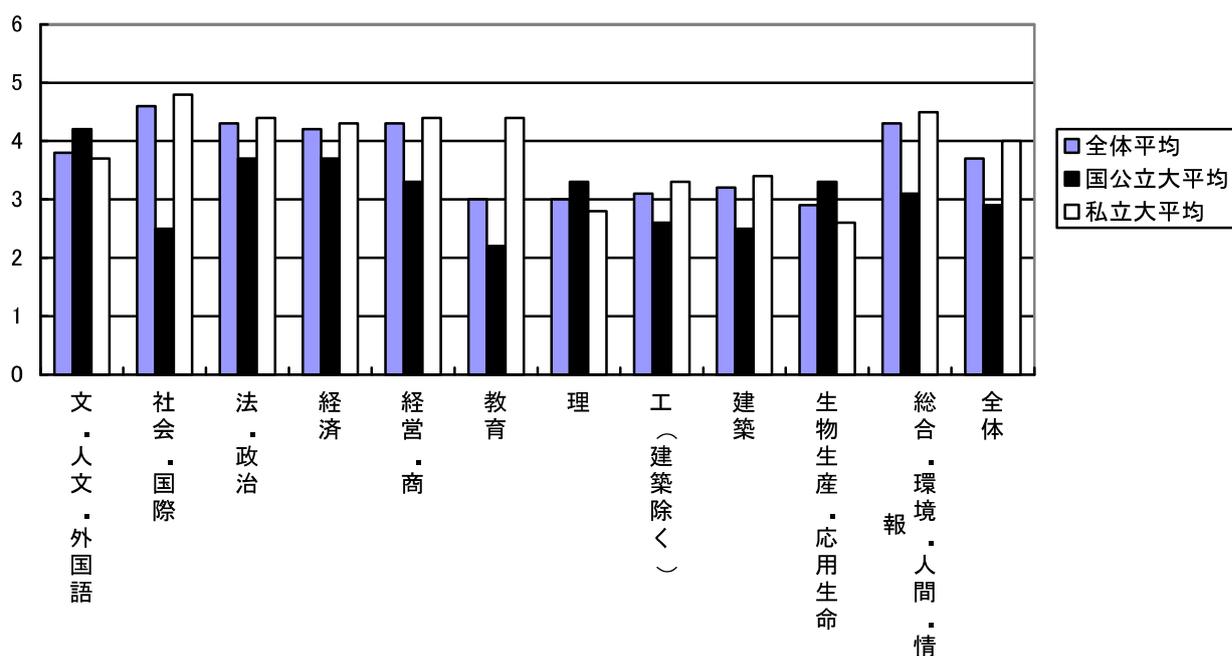
3. 質問紙調査の結果分析

(1)初年次ゼミ

①系統別実施状況

- ・初年次科目の履修率をポイントに換算。
 必須=6、80%以上=5、60%~80%=4、40%~60%=3、20~40%=2、20%以下=1、
 履修率の記載なし=1
 半期科目は、上記ポイントの2分の1とする。
- ・複数の科目を設置している場合は、ポイントを積み上げ、上限を6点とする。
- ・系統ごとに平均ポイントを算出。

| 系統 | 全体 | | 国公立大 | | 私立大 | |
|-------------|-----------|------------|-----------|------------|-----------|------------|
| | 対象 学科数 | 平均 ポイント | 対象 学科数 | 平均 ポイント | 対象 学科数 | 平均 ポイント |
| 文・人文・外国語 | 132 | 3.8 | 5 | 4.2 | 127 | 3.7 |
| 社会・国際 | 84 | 4.6 | 7 | 2.5 | 77 | 4.8 |
| 法・政治 | 75 | 4.3 | 11 | 3.7 | 64 | 4.4 |
| 経済 | 76 | 4.2 | 16 | 3.7 | 60 | 4.3 |
| 経営・商 | 129 | 4.3 | 15 | 3.3 | 114 | 4.4 |
| 教育 | 46 | 3.0 | 29 | 2.2 | 17 | 4.4 |
| 理 | 64 | 3.0 | 30 | 3.3 | 34 | 2.8 |
| 工(建築除く) | 204 | 3.1 | 59 | 2.6 | 145 | 3.3 |
| 建築 | 36 | 3.2 | 10 | 2.5 | 26 | 3.4 |
| 生物生産・応用生命 | 31 | 2.9 | 14 | 3.3 | 17 | 2.6 |
| 総合・環境・人間・情報 | 75 | 4.3 | 14 | 3.1 | 61 | 4.5 |
| 全体 | 952 | 3.7 | 210 | 2.9 | 742 | 4.0 |



初年次ゼミを学系別にみると、文系学科の方が平均ポイントは高く、理系学科はどの学科も3ポイント前後と低い。理系学科の場合、初年次ゼミ科目が必修で設置されていても、半期1科目のみという学科が多く、平均ポイントを下げの要因となっている。初年次から必修の専門基礎科目なども多く設置されており、通期で必修の初年次ゼミを開講する余裕がないと推測される。

最も平均ポイントが高いのは社会・国際学系統、次が総合・環境・人間・情報学系統であり、特に私立大において、複数の初年次ゼミ科目を必修で設置している学科が多いことが、平均を引き上げる要因となっている。体系的な知識の獲得よりも、課題設定から入るといった学問的な特徴が表れている。

概ね国公立大よりも私立大の方がポイントは高い。ただし、国公立大の場合は全学共通教育での設置科目についてアンケートに記載されていない学科もあり、それが平均を下げている要因とも考えられる。

②初年次ゼミ科目に含まれるアクティブラーニングの形態

- ・科目ごとにアクティブラーニングの要素の頻度をポイントに換算。
頻度大=3、頻度中=2、頻度小=1、記載なし=0
- ・系統ごとに平均ポイントを算出。

| 全体 | 対象 科目数 | グループ 学習 | ディベート | フィールド ワーク | プレゼン テーション | 振り返り | 時間外 学習 |
|-------------|-----------|------------|-------|--------------|---------------|------|-----------|
| 文・人文・外国語 | 187 | 1.6 | 1.2 | 0.7 | 1.6 | 1.5 | 1.6 |
| 社会・国際 | 128 | 1.9 | 1.6 | 0.8 | 2.0 | 1.5 | 1.6 |
| 法・政治 | 114 | 1.8 | 1.5 | 0.8 | 1.8 | 1.3 | 1.5 |
| 経済 | 112 | 1.8 | 1.4 | 0.8 | 1.8 | 1.4 | 1.5 |
| 経営・商 | 193 | 2.0 | 1.3 | 0.8 | 1.8 | 1.4 | 1.5 |
| 教育 | 58 | 2.1 | 1.4 | 1.0 | 1.9 | 2.0 | 1.9 |
| 理 | 85 | 1.9 | 1.2 | 0.8 | 1.7 | 1.3 | 1.9 |
| 工(建築除く) | 257 | 2.0 | 1.2 | 1.0 | 1.4 | 1.5 | 1.6 |
| 建築 | 43 | 2.4 | 1.6 | 1.5 | 2.1 | 1.4 | 1.8 |
| 生物生産・応用生命 | 34 | 2.3 | 1.4 | 1.0 | 1.6 | 1.1 | 1.4 |
| 総合・環境・人間・情報 | 131 | 1.9 | 1.2 | 0.9 | 1.6 | 1.6 | 1.5 |
| 全体 | 1,342 | 1.9 | 1.3 | 0.9 | 1.7 | 1.4 | 1.6 |

| 国公立大 | 対象 科目数 | グループ 学習 | ディベート | フィールド ワーク | プレゼン テーション | 振り返り | 時間外 学習 |
|-------------|-----------|------------|-------|--------------|---------------|------|-----------|
| 文・人文・外国語 | 7 | 2.1 | 2.1 | 1.0 | 2.7 | 1.1 | 1.9 |
| 社会・国際 | 7 | 1.3 | 1.0 | 0.6 | 1.9 | 1.1 | 1.6 |
| 法・政治 | 13 | 1.9 | 2.2 | 1.2 | 2.1 | 1.6 | 2.2 |
| 経済 | 22 | 1.9 | 1.9 | 1.1 | 2.4 | 1.3 | 2.1 |
| 経営・商 | 18 | 1.7 | 1.6 | 0.8 | 2.1 | 1.0 | 1.5 |
| 教育 | 25 | 1.9 | 1.3 | 1.2 | 1.7 | 1.6 | 1.4 |
| 理 | 38 | 1.9 | 1.1 | 0.8 | 1.9 | 0.9 | 1.9 |
| 工(建築除く) | 58 | 1.9 | 1.2 | 0.9 | 1.3 | 1.2 | 1.6 |
| 建築 | 10 | 2.4 | 1.5 | 1.8 | 2.0 | 1.5 | 1.9 |
| 生物生産・応用生命 | 20 | 2.4 | 1.6 | 1.2 | 1.9 | 1.2 | 1.5 |
| 総合・環境・人間・情報 | 18 | 1.3 | 0.9 | 0.6 | 1.3 | 0.8 | 1.1 |
| 全体 | 236 | 1.9 | 1.4 | 1.0 | 1.8 | 1.2 | 1.7 |

| 私立大 | 対象 科目数 | グループ 学習 | ディベート | フィールド ワーク | プレゼン テーション | 振り返り | 時間外 学習 |
|-------------|-----------|------------|-------|--------------|---------------|------|-----------|
| 文・人文・外国語 | 180 | 1.5 | 1.2 | 0.7 | 1.6 | 1.5 | 1.6 |
| 社会・国際 | 121 | 2.0 | 1.6 | 0.8 | 2.0 | 1.5 | 1.6 |
| 法・政治 | 101 | 1.8 | 1.4 | 0.8 | 1.8 | 1.3 | 1.5 |
| 経済 | 90 | 1.8 | 1.3 | 0.7 | 1.7 | 1.4 | 1.3 |
| 経営・商 | 175 | 2.0 | 1.3 | 0.8 | 1.8 | 1.4 | 1.5 |
| 教育 | 33 | 2.2 | 1.4 | 0.8 | 2.0 | 2.3 | 2.3 |
| 理 | 47 | 2.0 | 1.3 | 0.8 | 1.6 | 1.6 | 1.9 |
| 工(建築除く) | 199 | 2.0 | 1.2 | 1.0 | 1.4 | 1.6 | 1.6 |
| 建築 | 33 | 2.4 | 1.6 | 1.4 | 2.1 | 1.4 | 1.7 |
| 生物生産・応用生命 | 14 | 2.2 | 1.2 | 0.9 | 1.1 | 1.0 | 1.3 |
| 総合・環境・人間・情報 | 113 | 2.0 | 1.3 | 0.9 | 1.7 | 1.7 | 1.6 |
| 全体 | 1,106 | 1.9 | 1.3 | 0.8 | 1.7 | 1.5 | 1.6 |

全体で見ると、アクティブラーニングの要素の中で最も平均ポイントが高いのが「グループ学習」(2.0 ポイント以上に網掛け)で、ほとんどの学科系統で導入が進んでいるが、特に、建築系と生物生産・応用生命系でポイントが高い。次にポイントが高いのが「プレゼンテーション」(2.0 以上に網掛け)である。

これは「受動的な学びから能動的な学び」への態度変容が課題となる初年次ゼミにおいては、「グループワーク」→「プレゼンテーション」が基本形として定着しつつあることを示唆している。同時にそのことは、グループワークにおけるファシリテーション能力が教員にとってますます重要化してきているという課題を表現する数字である。

全体で見るとポイントが低いのは「フィールドワーク」(1.0 ポイント以上に網掛け)だが、建築学系統においてのみポイントが高い。建築学系統が、実際に建築物を探訪する授業を初年次に組み込んでいることはその学系的な特徴と合致しているが、社会・国際学系はフィールドワークが早くから求められる学系であるにもかかわらず、ポイントが高くない。ただし、文系学科でも国公立大の方は、私立大と比較するとやや高くなっている。

一方、「振り返り」(2.0 ポイント以上に網掛け)は私立大の方がポイントは高く、系統別に見ると教育学系統で高い。これは、教員としての自立した判断力や自己成長能力の育成に対応していることを示唆している。

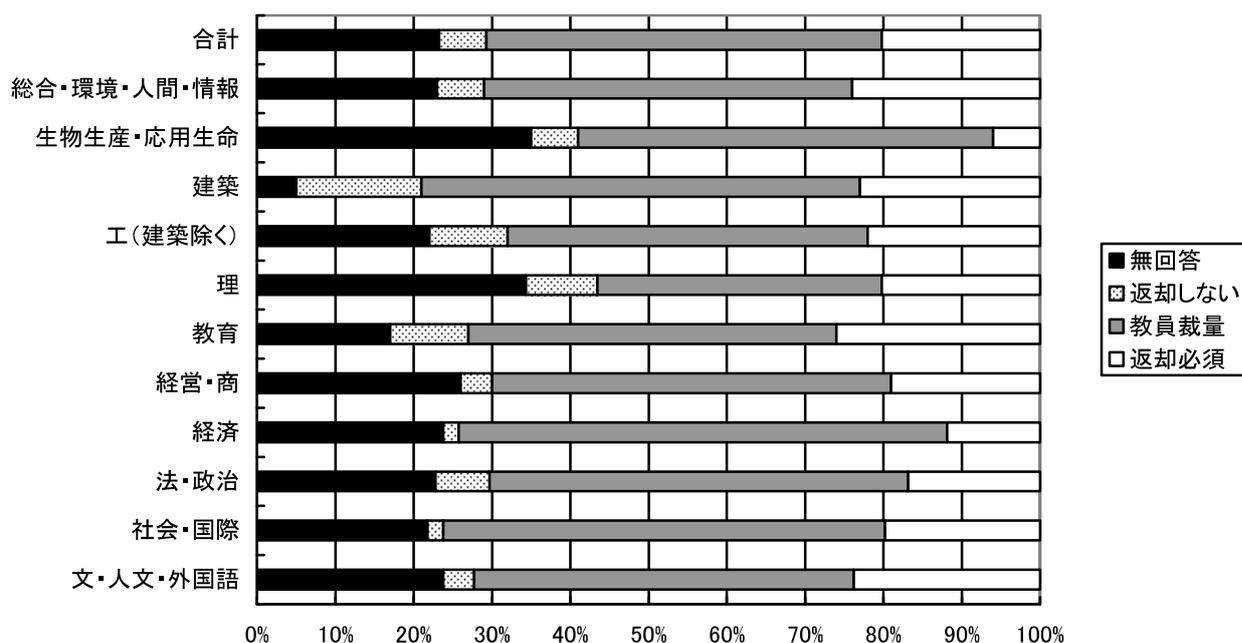
③初年次ゼミ科目でのレポート返却

・各科目のレポート返却に関するルールについての回答を、系統ごとにまとめる。

| 系統 | 対象科目数 | 無回答 | 返却しない | 教員裁量 | 返却必須 |
|-------------|-------|-----|-------|------|------|
| 文・人文・外国語 | 187 | 24% | 4% | 49% | 24% |
| 社会・国際 | 128 | 22% | 2% | 57% | 20% |
| 法・政治 | 114 | 23% | 7% | 54% | 17% |
| 経済 | 112 | 24% | 2% | 63% | 12% |
| 経営・商 | 193 | 26% | 4% | 51% | 19% |
| 教育 | 58 | 17% | 10% | 47% | 26% |
| 理 | 85 | 34% | 9% | 36% | 20% |
| 工(建築除く) | 257 | 22% | 10% | 46% | 22% |
| 建築 | 43 | 5% | 16% | 56% | 23% |
| 生物生産・応用生命 | 34 | 35% | 6% | 53% | 6% |
| 総合・環境・人間・情報 | 131 | 23% | 6% | 47% | 24% |
| 合計 | 1342 | 23% | 6% | 50% | 20% |

| 系統 | 国公立大 | | | | | 私立大 | | | | |
|-------------|-------|-----|-------|------|------|-------|-----|-------|------|------|
| | 対象科目数 | 無回答 | 返却しない | 教員裁量 | 返却必須 | 対象科目数 | 無回答 | 返却しない | 教員裁量 | 返却必須 |
| 文・人文・外国語 | 7 | 0% | 0% | 71% | 29% | 180 | 24% | 4% | 48% | 24% |
| 社会・国際 | 7 | 14% | 0% | 43% | 43% | 121 | 22% | 2% | 58% | 18% |
| 法・政治 | 13 | 8% | 0% | 85% | 8% | 101 | 25% | 8% | 50% | 18% |
| 経済 | 22 | 14% | 0% | 73% | 14% | 90 | 27% | 2% | 60% | 11% |
| 経営・商 | 18 | 17% | 0% | 78% | 6% | 175 | 27% | 4% | 49% | 21% |
| 教育 | 25 | 20% | 8% | 60% | 12% | 33 | 15% | 12% | 36% | 36% |
| 理 | 38 | 39% | 0% | 42% | 18% | 47 | 30% | 17% | 32% | 21% |
| 工(建築除く) | 58 | 26% | 10% | 48% | 16% | 199 | 21% | 10% | 46% | 24% |
| 建築 | 10 | 0% | 0% | 70% | 30% | 33 | 6% | 21% | 52% | 21% |
| 生物生産・応用生命 | 20 | 35% | 5% | 55% | 5% | 14 | 36% | 7% | 50% | 7% |
| 総合・環境・人間・情報 | 18 | 50% | 0% | 39% | 11% | 113 | 19% | 7% | 49% | 26% |
| 合計 | 236 | 25% | 4% | 56% | 15% | 1,106 | 23% | 7% | 49% | 21% |

全体



このレポート返却の質問項目を設けた理由は、当然、学習者を中心に据えるならば、学生が自ら行動した結果であるレポートに教員が具体的に対応することが重要だからである。

しかし実態は質問紙の結果が示すように、レポートの返却を必須としているのは、全体で約2割。私立大の方が返却を必須としている科目の率が高く、国公立大ではやや落ちる。

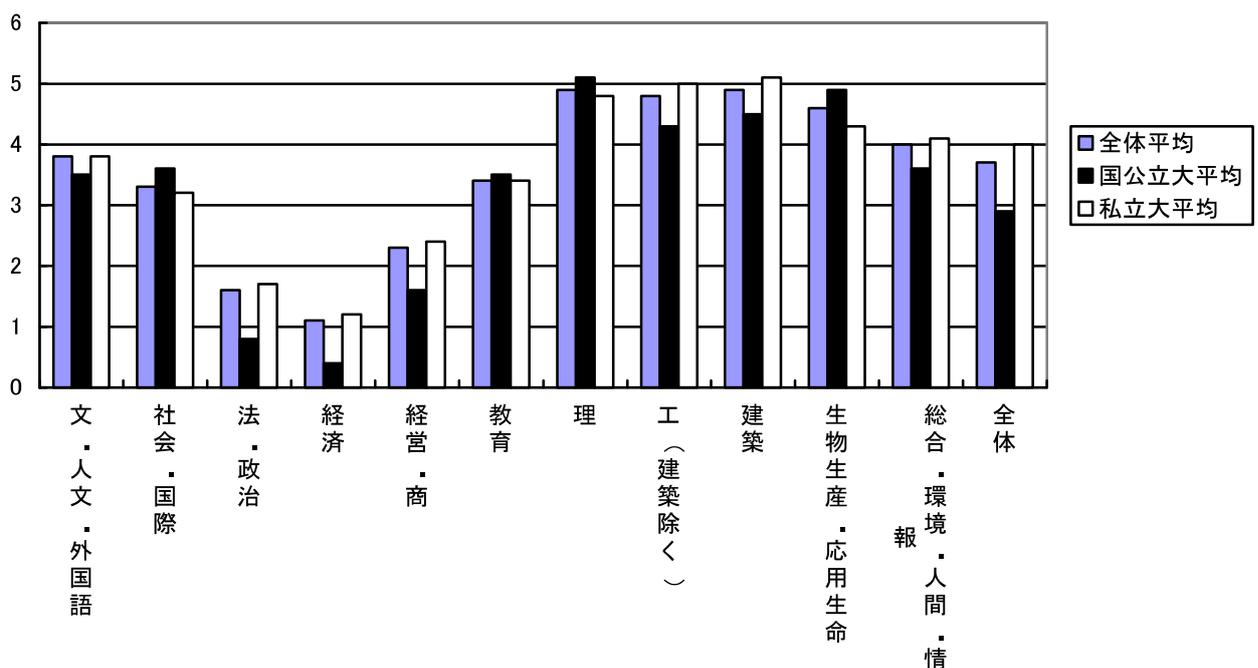
学部系統別にみると、必須としている率が高いのは、人文・教育学系、工学系、総合科学系である（返却必須が22%以上の系統に網掛け）。

(2) 専門知識の定着を目的としたアクティブラーニング科目(一般的アクティブラーニング)

① 系統別実施状況

- ・履修率をポイントに換算
 必須=6、80%以上=5、60%~80%=4、40%~60%=3、
 20~40%=2、20%以下=1、履修率の記載なし=1。
 半期科目は、上記ポイントの2分の1。
- ・複数の科目を設置している場合は、ポイントを積み上げ、上限を6点とする。
- ・系統ごとに平均ポイントを算出。

| 系統 | 全体 | | 国公立 | | 私立大 | |
|-------------|-----------|------------|-----------|------------|-----------|------------|
| | 対象 学科数 | 平均 ポイント | 対象 学科数 | 平均 ポイント | 対象 学科数 | 平均 ポイント |
| 文・人文・外国語 | 132 | 3.8 | 5 | 3.5 | 127 | 3.8 |
| 社会・国際 | 84 | 3.3 | 7 | 3.6 | 77 | 3.2 |
| 法・政治 | 75 | 1.6 | 11 | 0.8 | 64 | 1.7 |
| 経済 | 76 | 1.1 | 16 | 0.4 | 60 | 1.2 |
| 経営・商 | 129 | 2.3 | 15 | 1.6 | 114 | 2.4 |
| 教育 | 46 | 3.4 | 29 | 3.5 | 17 | 3.4 |
| 理 | 64 | 4.9 | 30 | 5.1 | 34 | 4.8 |
| 工(建築除く) | 204 | 4.8 | 59 | 4.3 | 145 | 5.0 |
| 建築 | 36 | 4.9 | 10 | 4.5 | 26 | 5.1 |
| 生物生産・応用生命 | 31 | 4.6 | 14 | 4.9 | 17 | 4.3 |
| 総合・環境・人間・情報 | 75 | 4.0 | 14 | 3.6 | 61 | 4.1 |
| 全体 | 952 | 3.5 | 210 | 3.6 | 742 | 3.5 |



理系学科は、国公立大・私立大とも、どの系統もポイントが高い。大学個別にみていくと、6点満点の学科も多く、実験や演習によって知識を定着させるというアプローチが定着しているものと思われる。

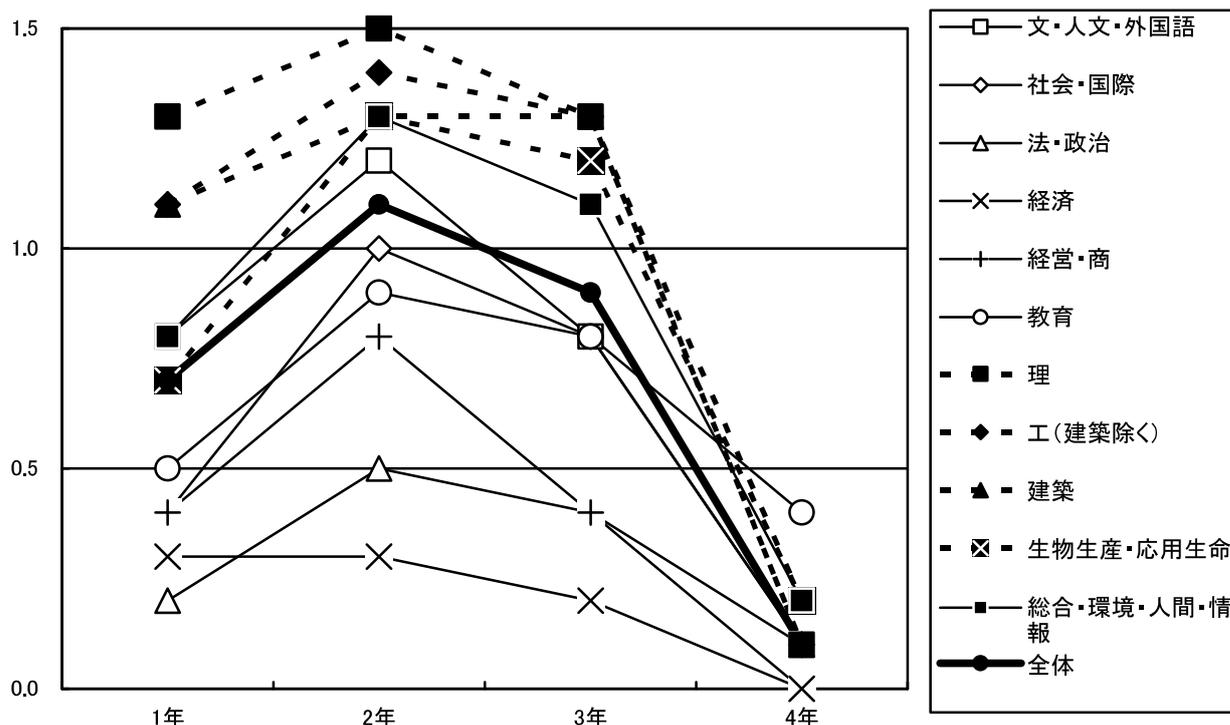
文系学科は、特に経済学系統、法・政治学系統でポイントが低く、大学個別のデータをみていくと、0ポイントの学科も多い。

現実的にはその卒業生の多くがスペシャリストとしてではなく、ジェネラリストとして社会で働く両学系で、「一般的アクティブラーニング」が少ないこと、即ち旧来の一方通行型の講義が未だ主流であるという点に改めて注目すべきであろう。

②学年別系統別実施状況

- ・履修率をポイントに換算
 必須=6、80%以上=5、60%~80%=4、40%~60%=3、
 20~40%=2、20%以下=1、履修率の記載なし=1。
 半期科目は、上記ポイントの2分の1。
- ・複数の科目を設置している場合は、ポイントを積み上げ、学年ごとの上限を2点とする。
- ・複数年次に開講されている場合は、最も低い学年にポイントを算入する。
- ・系統ごとに平均ポイントを算出。

| 系統 | 該当学科数 | 1年 平均実施率 ポイント | 2年 平均実施率 ポイント | 3年 平均実施率 ポイント | 4年 平均実施率 ポイント |
|-------------|-------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 文・人文・外国語 | 132 | 0.8 | 1.2 | 0.8 | 0.1 |
| 社会・国際 | 84 | 0.4 | 1.0 | 0.8 | 0.1 |
| 法・政治 | 75 | 0.2 | 0.5 | 0.4 | 0.0 |
| 経済 | 76 | 0.3 | 0.3 | 0.2 | 0.0 |
| 経営・商 | 129 | 0.4 | 0.8 | 0.4 | 0.1 |
| 教育 | 46 | 0.5 | 0.9 | 0.8 | 0.4 |
| 理 | 64 | 1.3 | 1.5 | 1.3 | 0.1 |
| 工(建築除く) | 204 | 1.1 | 1.4 | 1.3 | 0.2 |
| 建築 | 36 | 1.1 | 1.3 | 1.3 | 0.1 |
| 生物生産・応用生命 | 31 | 0.7 | 1.3 | 1.2 | 0.2 |
| 総合・環境・人間・情報 | 75 | 0.8 | 1.3 | 1.1 | 0.2 |
| 全体 | 952 | 0.7 | 1.1 | 0.9 | 0.1 |



どの学科系統も、2年次で最もポイントが高くなる。1年次は教養科目が多くを占めており、本格的な専門科目が2年次から始まるため、このタイミングで知識定着を目的としたアクティブラーニングの設置が多くなるものと思われる。そして、3年次になるとややポイントが下がり、4年次には卒業論文、卒業研究が中心となるため、極めて低くなる。

しかし、その中で法・政治学系と経済学系は、2年次のポイントが0.5ポイント以下と、他の学系と比較すると極めて低いことも明らかとなった。これは、履修率20%未満の半期科目が平均で1科目も設置されていないことを示している。

(3) 課題解決を目的としたアクティブラーニング科目(高次のアクティブラーニング)

① 学年別、系統別実施状況

- ・履修率をポイントに換算

必須=6、80%以上=5、60%~80%=4、40%~60%=3、20~40%=2、20%以下=1、

履修率の記載なし=1

半期科目は、上記ポイントの2分の1とする。

- ・1学年で複数の科目を設置している場合はポイントを積み上げ、1学年の上限を6点とする。

- ・学年、系統ごとに平均ポイントを算出。

| 系統 | 対象 学科数 | 2年平均 実施率 ポイント | 3年平均 実施率 ポイント | 4年平均 実施率 ポイント |
|-------------|-----------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 文・人文・外国語 | 132 | 0.5 | 0.7 | 0.4 |
| 社会・国際 | 84 | 0.6 | 0.7 | 0.5 |
| 法・政治 | 75 | 0.1 | 0.3 | 0.2 |
| 経済 | 76 | 0.4 | 0.3 | 0.2 |
| 経営・商 | 129 | 0.5 | 0.6 | 0.5 |
| 教育 | 46 | 0.4 | 0.6 | 0.4 |
| 理 | 64 | 0 | 0.2 | 0 |
| 工(建築除く) | 204 | 0.6 | 1.6 | 0.1 |
| 建築 | 36 | 1.5 | 1.9 | 0.3 |
| 生物生産・応用生命 | 31 | 0.3 | 0.3 | 0.1 |
| 総合・環境・人間・情報 | 75 | 0.8 | 0.9 | 0.5 |
| 合計 | 952 | 0.5 | 0.8 | 0.3 |

| 系統 | 国公立大 | | | | 私立大 | | | |
|-------------|-----------|---------------------|---------------------|---------------------|-----------|---------------------|---------------------|---------------------|
| | 対象 学科数 | 2年平均 実施率 ポイント | 3年平均 実施率 ポイント | 4年平均 実施率 ポイント | 対象 学科数 | 2年平均 実施率 ポイント | 3年平均 実施率 ポイント | 4年平均 実施率 ポイント |
| 文・人文・外国語 | 5 | 0.7 | 0.6 | 0.5 | 127 | 0.5 | 0.7 | 0.4 |
| 社会・国際 | 7 | 0.3 | 0.5 | 0.1 | 77 | 0.6 | 0.7 | 0.6 |
| 法・政治 | 11 | 0 | 0.1 | 0.2 | 64 | 0.1 | 0.3 | 0.2 |
| 経済 | 16 | 0.4 | 0 | 0 | 60 | 0.4 | 0.3 | 0.2 |
| 経営・商 | 15 | 0.4 | 0.2 | 0.2 | 114 | 0.5 | 0.7 | 0.6 |
| 教育 | 29 | 0.3 | 0.6 | 0.3 | 17 | 0.7 | 0.6 | 0.6 |
| 理 | 30 | 0 | 0.3 | 0 | 34 | 0 | 0.1 | 0 |
| 工(建築除く) | 59 | 0.4 | 1.5 | 0.2 | 145 | 0.6 | 1.6 | 0.1 |
| 建築 | 10 | 1.0 | 3.0 | 0 | 26 | 1.6 | 1.5 | 0.4 |
| 生物生産・応用生命 | 14 | 0.7 | 0.6 | 0.3 | 17 | 0 | 0 | 0 |
| 総合・環境・人間・情報 | 14 | 0.6 | 0.3 | 0 | 61 | 0.9 | 1.0 | 0.7 |
| 合計 | 210 | 0.4 | 0.8 | 0.2 | 742 | 0.5 | 0.8 | 0.4 |

経済学系統を除いて、すべての学科系統で3年次のポイントが最も高い（各系統で最もポイントが高い学年に網掛け）。低学年次から積み上げてきた知識や技術を課題解決のために活用するという経験を踏まえて、4年次の卒業論文、卒業研究に取り組むという流れになっているためと思われる。特に、工学系では、3年次のポイントが高い。

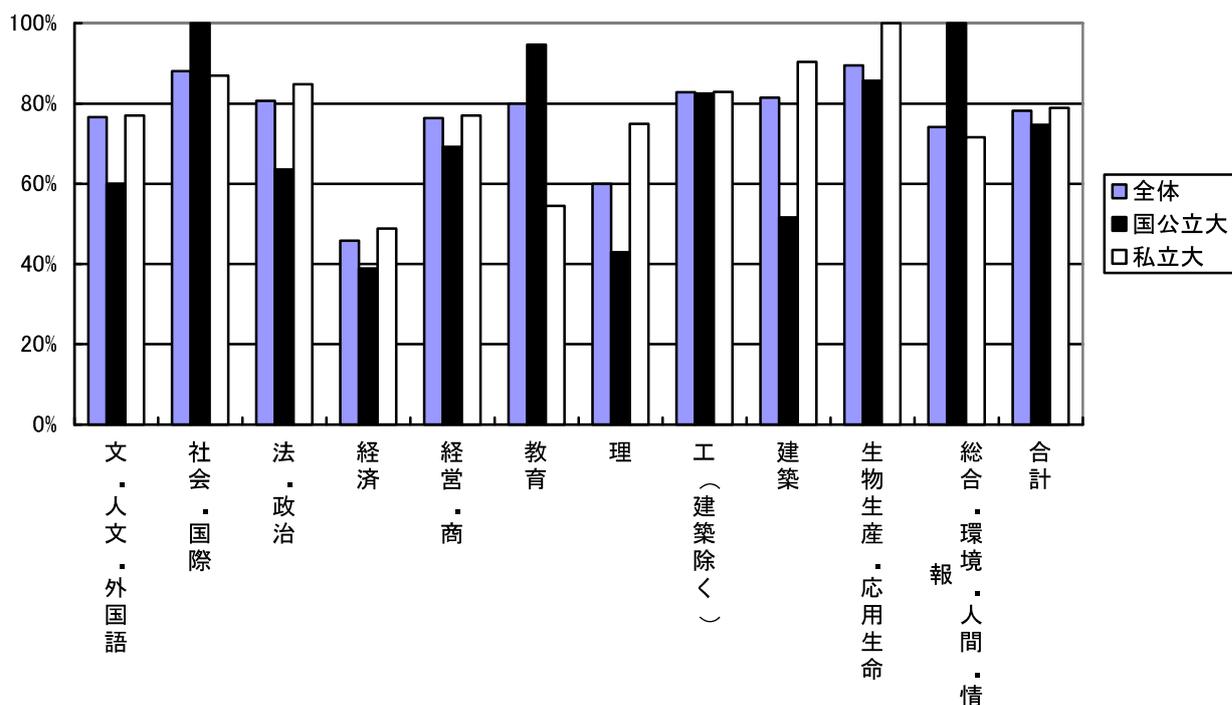
そのことは他方で、1年次と2年次は知識を覚え、3年次になってから活用が始まるという伝統的なカリキュラム設計が今も、専門ゼミを除いても根強いことを示唆しており、各学年での専門知識修得レベルに応じた「高次のアクティブラーニング」の学年連続的な導入の必要性を指摘したい。

また、国公立大の法・政治学系、経済学系、経営・商学系では、3年次のポイントも低い（0.2ポイント以下に網掛け）。これは「高次のアクティブラーニング」を含んだカリキュラムが組み立てられていない実態を示している。

②活用すべき専門知識を伝達する科目の記入状況

- ・課題解決を目的としたアクティブラーニング科目において、活用すべき専門知識を伝達する科目の記入状況を系統別にまとめる。
- ・「同科目」や「全科目」などの回答も含めている。

| 系統 | 全体 | | | 国公立大 | | | 私立大 | | |
|-------------|--------|---------|---------|--------|---------|---------|--------|---------|---------|
| | 活用科目記入 | 活用科目未記入 | 活用科目記入率 | 活用科目記入 | 活用科目未記入 | 活用科目記入率 | 活用科目記入 | 活用科目未記入 | 活用科目記入率 |
| 文・人文・外国語 | 160 | 49 | 76.6% | 3 | 2 | 60.0% | 157 | 47 | 77.0% |
| 社会・国際 | 104 | 14 | 88.1% | 10 | 0 | 100.0% | 94 | 14 | 87.0% |
| 法・政治 | 46 | 11 | 80.7% | 7 | 4 | 63.6% | 39 | 7 | 84.8% |
| 経済 | 27 | 32 | 45.8% | 7 | 11 | 38.9% | 20 | 21 | 48.8% |
| 経営・商 | 123 | 38 | 76.4% | 9 | 4 | 69.2% | 114 | 34 | 77.0% |
| 教育 | 24 | 6 | 80.0% | 18 | 1 | 94.7% | 6 | 5 | 54.5% |
| 理 | 9 | 6 | 60.0% | 3 | 4 | 42.9% | 6 | 2 | 75.0% |
| 工(建築除く) | 280 | 58 | 82.8% | 66 | 14 | 82.5% | 214 | 44 | 82.9% |
| 建築 | 110 | 25 | 81.5% | 16 | 15 | 51.6% | 94 | 10 | 90.4% |
| 生物生産・応用生命 | 17 | 2 | 89.5% | 12 | 2 | 85.7% | 5 | 0 | 100.0% |
| 総合・環境・人間・情報 | 138 | 48 | 74.2% | 17 | 0 | 100.0% | 121 | 48 | 71.6% |
| 合計 | 1,038 | 289 | 78.2% | 168 | 57 | 74.7% | 870 | 232 | 78.9% |



専門知識を活かすことなく課題解決を目的としたアクティブラーニングを行うと、往々にしてそれは“お遊び”や単なるイベントに終始してしまいがちであることが、これまでの調査で判明している。故に、「高次のアクティブラーニング」で、どの科目の専門知識を活用しているのか、その専門知識を伝達する科目名を尋ねた。

全体では約 8 割の学科で、課題解決を目的としたアクティブラーニング科目で活用すべき専門知識を伝達する科目が記入されている。

経済学系統では国公立大・私立大とも記入率が低い。p.21 の (3) 「①学年別、系統別実施状況」でも、経済学系統はポイントが低い。課題解決を目的としたアクティブラーニングの導入度が低く、かつ、導入していても、知識を伝達する科目との連携などが考慮されていないという状態である。

(4)ファシリテータとしての SA・TA 導入状況

「初年次ゼミ」「専門知識の定着を目的としたアクティブラーニング科目」「課題解決を目的としたアクティブラーニング科目」それぞれにおいて、ファシリテータとしての SA・TA の導入状況を比較する。

| 初年次ゼミ科目 | 系統 | 対象科目数 | 無回答 | 導入していない | 一部講座で導入 | 全講座で導入 |
|-------------------------|-------------|-------|-----|---------|---------|--------|
| | 文・人文・外国語 | 187 | 9% | 74% | 9% | 8% |
| | 社会・国際 | 128 | 17% | 59% | 15% | 9% |
| | 法・政治 | 114 | 8% | 61% | 18% | 13% |
| | 経済 | 112 | 14% | 65% | 11% | 10% |
| | 経営・商 | 193 | 10% | 65% | 10% | 15% |
| | 教育 | 58 | 7% | 66% | 17% | 10% |
| | 理 | 85 | 7% | 42% | 22% | 28% |
| | 工(建築除く) | 257 | 12% | 45% | 18% | 25% |
| | 建築 | 43 | 5% | 60% | 14% | 21% |
| | 生物生産・応用生命 | 34 | 9% | 71% | 18% | 3% |
| | 総合・環境・人間・情報 | 131 | 10% | 63% | 13% | 14% |
| | 合計 | 1342 | 11% | 60% | 14% | 15% |
| 知識の定着を目的としたアクティブラーニング科目 | 系統 | 対象科目数 | 無回答 | 導入していない | 一部講座で導入 | 全講座で導入 |
| | 文・人文・外国語 | 1081 | 9% | 86% | 2% | 2% |
| | 社会・国際 | 419 | 17% | 62% | 5% | 15% |
| | 法・政治 | 148 | 8% | 80% | 4% | 8% |
| | 経済 | 110 | 35% | 51% | 4% | 10% |
| | 経営・商 | 436 | 16% | 62% | 6% | 16% |
| | 教育 | 432 | 7% | 80% | 5% | 7% |
| | 理 | 464 | 13% | 25% | 7% | 55% |
| | 工(建築除く) | 1363 | 8% | 22% | 11% | 59% |
| | 建築 | 241 | 8% | 30% | 2% | 60% |
| | 生物生産・応用生命 | 252 | 16% | 21% | 20% | 43% |
| | 総合・環境・人間・情報 | 575 | 17% | 49% | 2% | 32% |
| | 合計 | 5,521 | 12% | 51% | 6% | 31% |
| 課題解決を目的としたアクティブラーニング科目 | 系統 | 対象科目数 | 無回答 | 導入していない | 一部講座で導入 | 全講座で導入 |
| | 文・人文・外国語 | 209 | 3% | 88% | 7% | 5% |
| | 社会・国際 | 118 | 12% | 67% | 13% | 20% |
| | 法・政治 | 57 | 6% | 91% | 4% | 6% |
| | 経済 | 59 | 31% | 73% | 9% | 18% |
| | 経営・商 | 161 | 11% | 79% | 7% | 14% |
| | 教育 | 30 | 25% | 71% | 4% | 25% |
| | 理 | 15 | 15% | 31% | 0% | 69% |
| | 工(建築除く) | 338 | 6% | 24% | 18% | 58% |
| | 建築 | 135 | 21% | 23% | 2% | 75% |
| | 生物生産・応用生命 | 19 | 58% | 50% | 8% | 42% |
| | 総合・環境・人間・情報 | 186 | 49% | 74% | 0% | 26% |
| | 合計 | 1,327 | 15% | 58% | 9% | 33% |

この項目を設けたのは次のような理由によっている。一般に授業への SA と TA の導入が増えているが、TA はともかく SA の場合はテキストの配布などの実務のみに限定されている場合が多い。しかし、SA をファシリテータとして活用することは、これまでの調査でも三重大学や嘉悦大学、立教大学などで多大な成果を生んでいることが明らかになっている。それは授業を受ける学生に教員との縦の関係、同級生との横の関係だけでなく、上級生との斜めの関係が入ることにより、関係の豊富化が実現され授業目的の達成に寄与するからである。そして、同時にファシリテータとしての SA の目覚ましい成長を促すからである。

「一般的アクティブラーニング」と「高次のアクティブラーニング」では、特に大学院生の多い理工系学科で、半数を超える科目において全講座で導入されている（全講座で導入 50%以上の系統に網掛け）。

初年次ゼミ科目では、「全講座で導入」との回答はどの学科も少ない。初年次ゼミだからこそ、新入生が大学での学習方法を学んだり、自分の学生生活の在り方を考えたりといった、各場面で上級生の SA が果たす役割は大きいはずであり、初年次ゼミでの SA・TA の活用は、今後の課題といえよう。

(5) 文系学科の専門ゼミ

① 学年別、系統別実施状況

- ・履修率をポイントに換算

必須=6、80%以上=5、60%~80%=4、40%~60%=3、20~40%=2、20%以下=1、

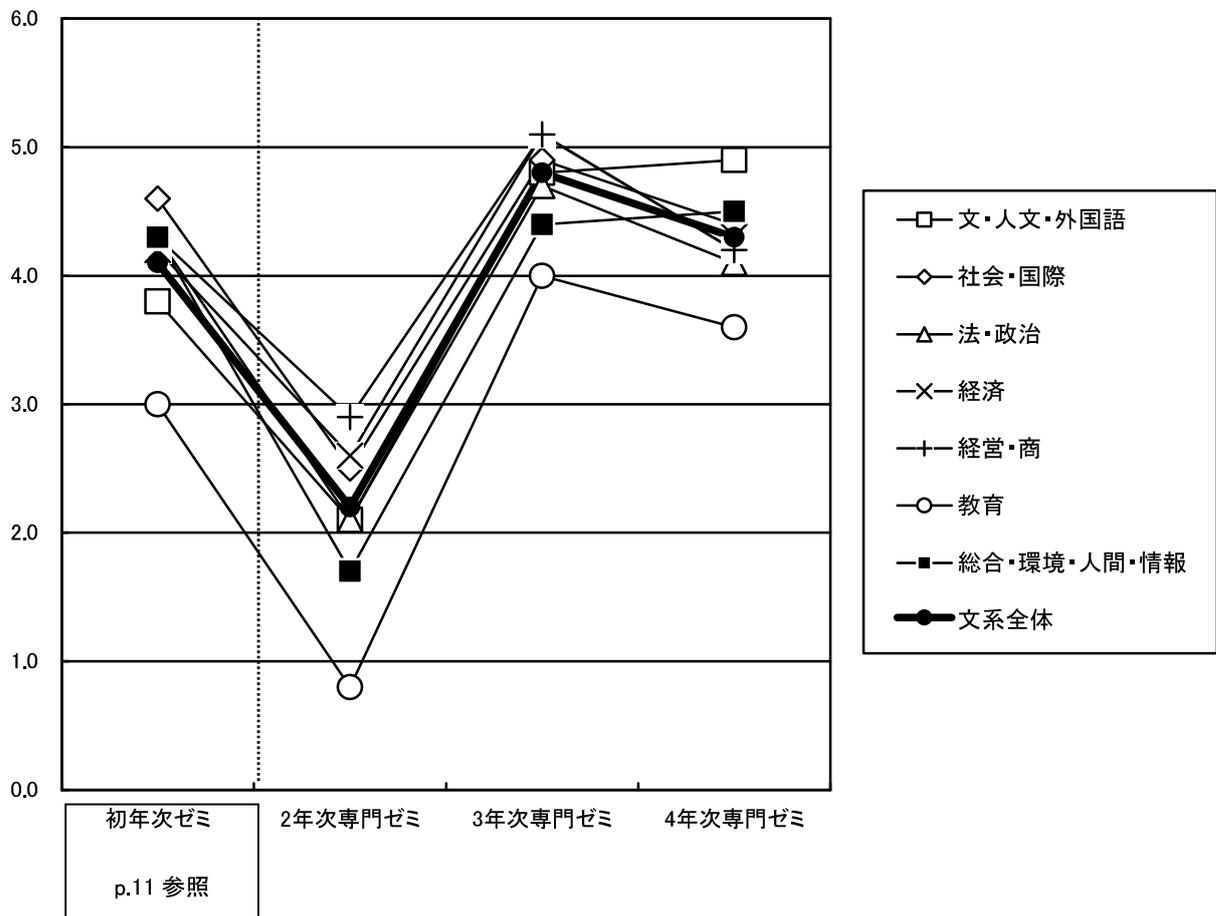
履修率の記載なし=1

半期科目は、上記ポイントの2分の1とする。

- ・1学年で複数の科目を設置している場合は、ポイントを積み上げ、1学年の上限を6点とする。
- ・学年、系統ごとに平均ポイントを算出。

| 系統 | 対象 学科数 | 2年平均 ポイント | 3年平均 ポイント | 4年平均 ポイント |
|-------------|-----------|--------------|--------------|--------------|
| 文・人文・外国語 | 13 | 2.1 | 4.8 | 4.9 |
| 社会・国際 | 85 | 2.5 | 4.9 | 4.4 |
| 法・政治 | 75 | 2.1 | 4.7 | 4.1 |
| 経済 | 76 | 2.6 | 5.1 | 4.2 |
| 経営・商 | 12 | 2.9 | 5.1 | 4.2 |
| 教育 | 46 | 0.8 | 4.0 | 3.6 |
| 総合・環境・人間・情報 | 75 | 1.7 | 4.4 | 4.5 |
| 文系・総合 平均 | 61 | 2.2 | 4.8 | 4.3 |

<参考> 初年次ゼミから専門ゼミへの4年間の流れ



理系学科は一般的に「ゼミ」という形態をとらずに、研究室での活動が中心となるため、文系学科のみ抽出して掲載している。

専門ゼミは、卒業論文とセットで4年間の学習の集大成というイメージが強いが、平均ポイントが高いのは3年次である（各系統で最もポイントが高い学年に網掛け）。これは、就職活動に向けて、3年次に学生個人のテーマをある程度意識させ、専門性を高めるという意図があるものと思われる。

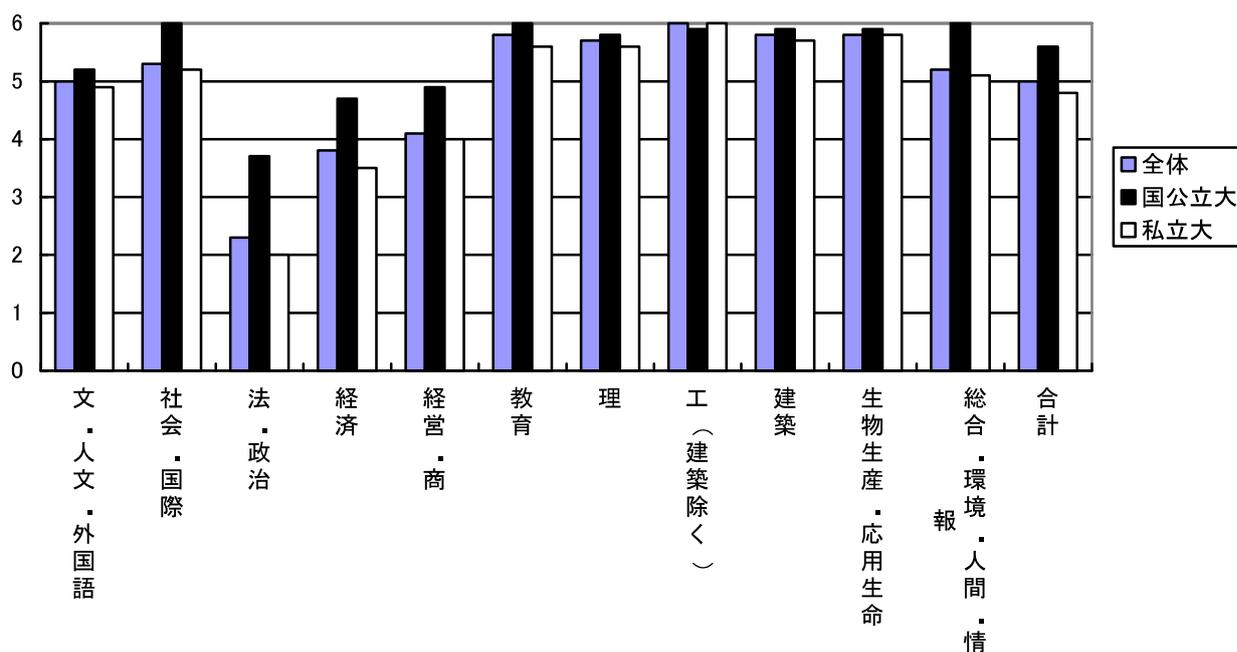
また、4年間の流れで見ると、初年次ゼミの系統別実施状況での文系学科のポイントが4.0ポイント前後（6ポイント満点）であることから、ゼミ科目の設置については2年次が谷間になっていること分かる。3年次に専門性を高めるという流れを作るためには、2年次にどのような準備をするか、もっと重要視するべきではないか。

(6) 卒業論文、卒業研究

①系統別 卒業論文・卒業研究履修率

- ・学部系統別に卒業論文、卒業研究の取り扱いを比較する。
- ・卒業論文、卒業研究に取り組む学生の割合をポイントに換算
 必須=6、必須ではないが100%の学生が取り組む=6、
 80%以上=5、60%~80%=4、40%~60%=3、20~40%=2、20%以下=1、
 卒業論文・卒業研究はあるが取り組む学生の割合の記載なし=1、
 卒業論文はない=0
- ・系統ごとに平均ポイントを算出。

| 系統 | 全体 | | 国公立 | | 私立 | |
|-------------|-----------|-------------------|-----------|-------------------|-----------|-------------------|
| | 対象 学科数 | 平均 履修率 ポイント | 対象 学科数 | 平均 履修率 ポイント | 対象 学科数 | 平均 履修率 ポイント |
| 文・人文・外国語 | 129 | 5.0 | 5 | 5.2 | 124 | 4.9 |
| 社会・国際 | 80 | 5.3 | 7 | 6.0 | 73 | 5.2 |
| 法・政治 | 71 | 2.3 | 11 | 3.7 | 60 | 2.0 |
| 経済 | 75 | 3.8 | 16 | 4.7 | 59 | 3.5 |
| 経営・商 | 124 | 4.1 | 15 | 4.9 | 109 | 4.0 |
| 教育 | 45 | 5.8 | 28 | 6.0 | 17 | 5.6 |
| 理 | 63 | 5.7 | 29 | 5.8 | 34 | 5.6 |
| 工(建築除く) | 198 | 6.0 | 19 | 5.9 | 139 | 6.0 |
| 建築 | 34 | 5.8 | 10 | 5.9 | 24 | 5.7 |
| 生物生産・応用生命 | 30 | 5.8 | 13 | 5.9 | 17 | 5.8 |
| 総合・環境・人間・情報 | 73 | 5.2 | 14 | 6.0 | 59 | 5.1 |
| 合計 | 922 | 5.0 | 20 | 5.6 | 715 | 4.8 |



理系学科では国公立大、私立大とも、どの系統も 6 ポイント近くで、ほぼ全員が卒業論文・卒業研究に取り組むが、法・政治学系と経済学系では極めて低い履修率である。また、この両学系は国公立大と私立大での差が大きく 1 ポイント以上の開きがある。特に私立大の法・政治学系統は 2.0 ポイントで、卒業論文に取り組む学生は極めて少ないことが明らかとなった。

(7)学習成果コンテスト

①学生の参加率が80%以上の学習成果コンテスト

抽出されたコンテストの半数以上が1年生を対象としたものであった。特に文系学科では、1年生を対象としたものが多い。情報収集や分析、プレゼンテーションやディスカッションなどのアカデミックスキルを学びながら、このようなコンテスト形式でそれを活用する場面を設けているものと思われる。

一方、理系学科では、2年生、3年生を対象としたものも見られる。低学年次に学んだ知識や技術を統合しものづくりを競い合うものや、卒業研究の準備段階としての研究発表、ポスター発表などが見られる。

②学生の参加率が40%～80%の学習成果コンテスト

上記の参加率の高い学習成果コンテストとは異なり、3年生を対象に含むものが最も多い。社会科学系の学科での事例が多く、ゼミナール大会や研究発表会など、ゼミでの活動との連携が特徴的である。

このようなコンテストは主要な目的としては、学生の学習に対するモチベーションを刺激するために行われるのが一般的である。しかし、当プロジェクトが注目するのは、こうしたコンテストの教員にとっての意味である。

というのも、これらのコンテストが結果として「ゼミを開く」ことになり、それを通じてゼミでの教え方を公開・検証する糸口となる可能性を有しているからである。

ただし、そこでの問題は、学部学科の教務担当者やコンテスト企画者が、そのような「教員にとっての意味」を意識しているかどうかである。

以 上